

土地改良区の取組み

宮城郡七ヶ浜町七ヶ浜土地改良区



我妻理事長



被災直後の七ヶ浜町

「田んぼがどうなってるのか見に行くべって見に行つたの。見たときに自分がいる場所が分からなくなった。あれ？田んぼに來たはずなのに…本当に驚きましたね。」

「行方不明者捜索のための手伝いがまず優先だった。水がかかないと捜索隊も入れない。」

七ヶ浜土地改良区管内の145ヘクタールの農地は全て被害を受けました。

■震災当時

宮城県の中央部に位置する七ヶ浜町は、東日本大震災で大きな被害を受けました。河川がないため、津波で入り込んだ海水を処理するためには改良区が管理する排水機場の復旧が必要ですが、復旧しなければ、瓦礫の撤去どころか行方不明者の捜索もできないため、宮城郡七ヶ浜町七ヶ浜土地改良区は排水機場の復旧を急ぎました。

七ヶ浜土地改良区理事長の我妻周悦さんに話を伺いました。

■事務所の流失

改良区の仕事も津波により流失しました。理事長は県と相談し、阿川沼排水機場を応急復旧し、機場の詰め所を改良区の仮事務所として使用することになりました。

「うちそのものが土台ごと流されたので重機が入って解体しながら運び出すという作業が延々と一年くらい続きましたかね。県の方であるポンプ場を改修して、事務所らしくしてもらった。理事長、ここ使え」と。

平成26年3月に新事務所が完成するまでの間、機場内に設けられた仮事務所で行っていました。



改良区事務所の流失



機場内に設けられた仮事務所

■震災から3年

七ヶ浜町では現在、復興交付金を活用した農山漁村復興基盤総合整備事業を実施しています。

「いろんな考え方があろうと思うけど、私は良くここまで2・3年で復旧したと思っています。」

今の30アール区画を1ヘクタールに、約3倍の広さのほ場に作り直す。あるいは高低差に応じて面積を最大限に大きく作り直す工事が今回の復興事業での取り組み。

不幸にも震災で辛い思いはしたけども、ただ辛い思いをしただけで終わらせたくないんですよ。1ステップも2ステップも前に進めるようなことをすれば、「ここまで生まれ変わった」というような姿になる可能性が十分にある。復興事業の中で達成できると信じてますから。」

と我妻理事長は、これから生まれ変わろうとする七ヶ浜の農業へ大きな希望を抱いています。



復旧した農地(七ヶ浜町松ヶ浜)



再建された改良区事務所



復旧した農地でのイベント